


誰にでもよくあることなのか どうなのか、わからないのですが、ふとした瞬間、特に本屋や古本屋にいる時に目にしたタイトルや絵から、ずっと懐かしい頁に「読んだ」絵本の内容や絵柄をブワ〜ッと一気に思い出すことがあります。詳しい内容でなくても、こんな雰囲気の話しだった、こんな絵のタッチだった…ということまで思い出さなくてもよかったのに、妙にクッキリと頭の中で思い浮かべることができて、何とも言えない懐かしさや楽しさで胸が一杯になるのです。今は便利な時代になったもので、タイトルが思い出せなくても、絵本に出てきたキーワードをいくつか打ち込み検索するだけでスマホがどの絵本だったのか教えてくれることもあります。そして図書館で借りて「そうそう、このシーン」と再び楽しんだりするのでした。人の記憶というのは、大変興味深い… たまたま思い出さることができたものはラッキーですが、その一方で永遠に思い出されることなく一生脳のどこかで眠ったままのものもあるのだなあ…と。

絵本にまつわる思い出はどれも楽しくなったり、ワクワクしたり、何となく心安らぐようなものが多く、それはとても幸せなことだなあと感じると同時に、幼少期にそうやって心に刻まれる印象や感情は意外と、後の自分に影響を与えるくらいに大きなものかもしれません。だとすると、小さなうちに読んだり聞いたりする話は、できるだけ美しかったり温かなものを残すものもいいなあ…と思うのです。いつかその思い出が自分を励ましたり嬉しい気持ちにさせてくれるかもしれない。だとすると、小さなうちから日々聖書を読みいつもみことばが近くに、基に、あることは何と大きくて大切なことか…と改めて思います。この世の嵐の中、悲しいこと、間違ったことも多くある中で、真のみことばを握っている心強さ。その時は意味がわからずとも必ず子どもたちを導き、カブけてくれることを信じています。ロバ子 

まきばでひとやすみ

